

## 第4回障害児通所支援に関する検討会 における主なご意見について

※第4回障害児通所支援に関する検討会で頂いたご意見を事務局において整理したもの

## 第4回障害児通所支援に関する検討会における主なご意見について ①

### 障害児通所支援の調査指標について

- 計画相談が必要だが、実際はすごくセルフ率が高い。大人の自己選択、自己決定のセルフは非常に分かるけれども、こどもにセルフが多いというのは、育ちと療育のスタートのときに応援する関係者がいないとも言えるのではないか。
- こども家庭庁では、こども家庭センターで支援が必要なこどもや家族にサポートプランをつくることになっている。実際に今、母子保健のところで保健師や心理士、ドクターなどが健診にいて、支援が必要であれば親子教室、心理とかに移行する。それはジャッジというより支えるという意味だと思うので、その方々に最初のところのプラン、サポートプランとか計画を、社会的養護のこどもと同じように平等に支援が必要ということをつくっていただく方向になったら、もうちょっと専門家の目を通して次の役所の中の支給決定につながるのではないか。
- モニタリングは、全部そこでこども政策をやるのは、実際上事務量として大変なので、計画相談などが次に入ってくると思うが、最初の決定のときはこども家庭センターがやっていたら、インクルージョンの入り口という意味でもいいのではないか。
- 大事なのは、気づきの段階でサポートがちゃんと入れることだと思う。気づきの段階で、個別的な対応だとか小集団とかを保障されたこどもたちは予後もいいので、成人になって働いている方、自閉症の地域生活を普通に元気に送っている方も実感として多い、気づきの段階からサポートというのが大事だと思う。
- 市町村の窓口で障害児通所サービスを利用したいという親御さんが来たら、5領域11項目の非常に大ざっぱだけれどもすぐ終わる聞き取りだけを受けて、親がつくった「児発が10日が欲しい、放デイが15日必要だ」というセルフプランがあると、役所はいいか悪いかはさておき分かりました、ということで児発が10日、放デイが15日で受給者証が出て利用できるのが今の仕組み。もちろん障害児相談がついているケースもあるが、残念ながらセルフの割合がかなり大人より高い。

## 第4回障害児通所支援に関する検討会における主なご意見について ②

### 障害児通所支援の調査指標について

○ 気づきの段階でサポートが必要ということになり役所に行くと、役所の窓口の職員が今回提示されている何項目か、また最大90項目を窓口で聞き取り、相談がついておらずセルフのプランがついてきて、市町村は90項目聞き取った結果、支給決定の話につながり、お子さんの発達状況を考え例えば「児童発達支援は10日までは必要なくて5日ぐらいではないのですかね」みたいなやり取りをする材料になるものなのか。あるいは、10日欲しいという児発がセルフプランで支給決定されるのか、これは市町村のやる気の問題だと思うが、多分、役所の窓口の人が90項目を聞くというのがまず事務的な負担と感じるだろう。

もう一つは、特に1、6、3歳の健診で、ちょっと気になるところがあるからフォローアップ的に児発を使ったらどうだろう、という親御さんに、あの項目を一つ一つ聞いていくというのは、本来はかなりデリケートなはずの話で、役所でたまたま窓口に出た担当者が、今から聞きますねと言って聞いていい内容なのか、正直なところかなり心配。

○ 5領域11項目については、特に行動障害の部分にすごく違和感がある。例えば食事、排泄の比較的スタティックというか静的な一定したものと、5番の行動障害はすごく環境に依存すると思う。どんな状況でどんな行動が出るか。この書き方は、こどもがこういう行動を持っている、という書き方なので、それを普遍していてもあまり意味がないと思っている。

○ 基本的に物すごく古い医学モデルに基づいていて、どういう環境だったらこういう問題が行動に出てくるけれども、こういう環境だったら出ない、という視点を入れていかないと、こどもの粗探しをしているような感じになってくるので考え方を変えたほうがいいと思う。極端な言い方をすれば、サポートが下手な事業所ほど点数が上がる。どんな環境でどういう行動が出てくるか、そこをもっと評価した方がいい。

○ トランジションで放デイをなるべく減らすみたいな話になっていくと、発達障害の子は放デイでやっとのんびりできる子が多い。そこでいわゆるこどもクラブに行くとすごく嫌がる子も経験では多いので、こどもの意見を聞きながら、どこでこどもがのんびりできるかということがすごく大事なかなと思う。

## 第4回障害児通所支援に関する検討会における主なご意見について ③

### 障害児通所支援の調査指標について

○ 支給決定の勘案すべき事項の中で、介護を行うものや保護者に関するものが出ているが、今までの議論の中で保護者支援は重要というのが随分出てきたと思う。しかし、実態としては、保護者に関する状況、養育環境をどの程度勘案して支給決定がなされているかあまり論議されていない気がする。親御さんが心身ともにまいっていたり、シングルの方で働けない、子供を見ていただけないと働けないこともあると思う。この辺りがやはり、成人と児童の場合でかなり違うところだと思うので、支給決定に関しては、保護者の状態像が強く反映されるような仕組みを検討していただければと思う。

○ 5領域11項目は、項目自体が発達観が古いところがあって欠損モデルに完全に寄っているもので、信頼モデルに変えていくことが大事なかなと思う。発達を領域別に切り分けてというスタイルではなく、生活全般を見通し、なるべくホリスティックな感じというところや、コミュニティへの参加だったり、文化へのコミットだったり、そういったところもはかれるようなというのが指標に使えるかというところとすごく難しいような気もするが、そういった方向で項目自体は検討していかないと、よりお子さんだったり御家族であつたりを尊重する方向には行きにくいのかと思う。

○ いまの5領域11項目では、保護者が非常に傷つきやすいものであって、これをつけても子どもに夢が持てないというところは非常に大きいところ。支援をしていくに当たってこれを入り口のところでつけて、保護者を傷つけたら支援にも何もならないという観点で、より生活に使っていき、今後の夢というか希望を持てるような指標がつかれないかということで調査研究をさせていただいた。

○ 90項目は、役所の窓口でというのは難しいのはよく分かる。なので、ダイジェスト版で20項目に絞ったものを用意している。これは行政の方をイメージしていて、思春期の方だと23項目、児童発達だと20項目、これぐらいだと窓口でも聞けるのではないかな。

## 第4回障害児通所支援に関する検討会における主なご意見について ④

### 障害児通所支援の調査指標について

○ 児童発達支援センターとか事業所、放課後等デイサービス、サービス提供事業者においてはぜひこの90項目で全体的なことを網羅していただきたいと思う。これをつけてもらえると、次に何を指せばいいのか。自分のお子さんはどんなところが支援が必要で、支援を受けると、次にどういう姿がイメージできるのか、そんなことも表現できているのではないかなと思っている。今までのような単に切り捨てていくような指標ではなく、次の目安を見せていけるような指標がくれたと思っている。支給決定にどう反映するかはもう少し議論が必要と思うが、現場の声を集約した形になっている。現場の知恵は物すごく詰まっているものにはっているもので、少し議論しながら使っていただければと思う。

○ 支給決定との兼ね合いが一番気になるところ。また、これを誰が行うのか、どのようなシチュエーションで調査をするのかというようなことが大変気になる。これについては、今後議論をしていくということであれば、そこでいいかなと思う。

○ 現状の5領域11項目は、割と計画相談の場で使われることが多いと思っているが、今回提案いただいたものは事業所でもという話もあり、どの場で一番使うといいのか整理したほうがいいと思う。

○ 項目は十分練られたものだと思うが、もう少し追加が可能であれば、地域へのコミットメントとか、余暇活動がどの程度あるのか、特に年長になってくると余暇活動のバリエーションがすごく少なくて、YouTubeをずっと見ているという方もいらっしゃるって、放課後等デイサービスで、一人で自発的に多様な余暇活動が進められるということも支援目標に入れてもらいたい。生活の質を上げるという点でも、困った行動とかだけでなく、幅広い生活の質を上げる観点の項目を少し加えてもらえるといいと思う。

## 第4回障害児通所支援に関する検討会における主なご意見について ⑤

### 障害児通所支援の調査指標について

○ 5領域11項目が妥当かどうか考えていたが、議論を聞くと、結局これは給付の決定のための手続にすぎないということ。例えば、今回調査研究の中で出された90項目の新しいものに関し、これをきちんとつけていくと本当にそのこどもの状態がかなり把握できるし、支援ニーズは見えてくると思う。それは支援計画を立てていく上では非常に役立つと思うが、ここで議論しているのは支給を決定するためのもの、本来性質が全然違うと思う。

○ 例えば調査研究、研究に使えるようなアカデミックなパワーを持っているアセスメントツールをつくらうとしているのとかぶっているところがあると思う、あくまでも給付決定のためのツール、手段であるとすれば、個々の利用するこどもの状態像、ニーズをきちんと全て吸い上げる、整理するというのではなく、トータルとして支援がどれぐらい必要か見えるような形、やはり目的をもう少し明確にしていくことで一回整理されたらいいのではないか。

○ 親側のアセスメントもとても大事になってくる。具体的な支援の必要量は、こどもの状態像だけでなく、保護者、家庭要因が非常に大きい。ただ、親側のアセスメントはリスクアセスメントと表裏一体となってくるので、言い方や着目点を少し工夫しなくてはならない。要は環境要因ということになってくると思う。介護している、育てている親側のストレスがどれだけ高いか、それに対してどれぐらいの支援環境があるのか、2つのディメンジョンに分かれると思うが、支給決定することにおいてはそのような視点で、こどもの支援の必要量と介護環境の質というところ、その部分だけ着目するような形にもう一回整理できたらいいのでは。

○ 現状の5領域11項目については、基本的に重症児以外ということだと思う。児童発達支援も重症児対象と重症児以外対象とあるので、重症児以外の対象の方の給付決定に活用しているという印象を持っている。重症児であると、大島の分類と医療的ケアの点数などがあれば概要が把握できると思うが、事実上は重症児に丸を書いたら重症児対象になるので、現状では重症児か重症児以外かでやっているのでは必要ないと思う。そういうものだという認識を持っている。

## 第4回障害児通所支援に関する検討会における主なご意見について ⑥

### 障害児通所支援の調査指標について

- 今回90項目で研究なされた内容については、アセスメントや個々のこどもたちの支援ニーズを把握して、当面の支援計画を立てるのに極めて有益な項目ではないか。
- 取り組むことはすごく価値があると思うが、例えば加算の対象とか、報酬の高低に影響を及ぼすことについては極めて慎重であるべきと思う。全国共通の評価基軸が持てるか考えたときにはちょっと難しいのではないか。慎重になされたほうがいい。
- 新しい項目も、基本的には重症児や医療的ケアの方のことは想定していないので、医療的な配慮についても発作と胃瘻など、医療的ケアについては今回福祉のほうでも医ケアのスコア表ができた。十何項目あるように様々な医療的ケアがあり得るが、そういったものは考慮されていないので、こちらを活用する場合でも、重症児以外、あるいは医療的ケアを要しないこどもたちを想定しているという認識を持った。
- 5領域11項目の調査で、困り感がより強い親が例えばセルフでチェックするものと、相談支援なりほかの者がチェックするので大分違うだろうと思う。私の住んでいる地域は、セルフプランがすごく多くてほとんどフルに支給されているが、親の困り感でもチェックする。このチェックを保護者もチェックしてもらい、相談側もチェックしてみるとどのくらいずれがあるか、その辺をバランスをとって見るというのは必要かもしれない。家族支援という養育者の困り感というのはそこで少し見えてくる、希望する保護者、養育者と、それから行政になるか分からないが、相談側と両方でチェックするというのはひとつアイデアとしてあると思う。

## 第4回障害児通所支援に関する検討会における主なご意見について ⑦

### 障害児通所支援の調査指標について

- 5領域11項目の調査に関しては、構造上の課題のみが把握されるというところに関し、近年増えている発達に対する指標がなかった部分に関して言うと、方向性としてはいいと思うが、地域のコミットの部分はもう少しボリュームを持たせてもいいのではないか。
- 指標があってもセルフが非常に多い、相談支援が足りないという状況で、指標をどこで誰が活用するかによって非常にばらつきもある。2024年改定以降のことを考えると、人材の減少は起こり得る。高齢者、介護のほうでは、2021年改定からLIFEということで、科学的介護情報システムというデータベースを使ったADLの認知症の状態とかを、データベースから適切なケアに対する提案を行うということが先行して行われている。先の話、またこどもの多様性、様々な状況はあるので一概にデータベースで方向性を示せない可能性はあるが、検討課題としてそろそろ上げていかないと、理想はあってもそこに人員、環境がついてこなければ絵に描いた餅になってしまう可能性があるのも、その辺りも、DX化、ICT化も含めて、今後検討していくべきなのか。少し突拍子もない提案にはなるが、先のことを考えると必ず直面する問題になろうかと思う。
- 一般施策での子供たちの見立ての部分も併せて使っていくというようなことはできないか。特に、家族の状況まで含めてどこが見るのかというところは場所の検討も必要になってくるし、全体の中でこどもと家庭を支えるというところの枠と、より専門性の高いケアであったり、サービスをつくっていく、提供していくというところと、1つではなくてもたくさんのところが力を寄せ合ってつくっていくのも有りだと思う。